

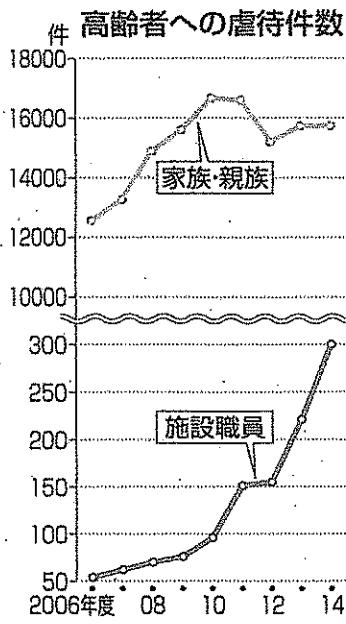
2/6
(火) 1/26

高齢者虐待が深刻化

厚生労働省は五日、二〇一四年度の高齢者虐待件数を発表した。特別養護老人ホームなど、介護施設の職員による虐待は過去最多の三百件（前年度比七十九件増）で、二二年度からの二年間で倍増した。家族や親族による虐待を含めた総件数は一万六千三十九件（八十七件増）。死亡したのは二十五人（四人増）で、いずれも家庭内の虐待が原因だった。

14年度「職員から」2年で倍増

介護施設をめぐっては人（山市）の系列施設で虐待が発覚するなど、問題が深刻化している。調査は、厚労省が高齢者虐待防止法に基づき毎年実施。一四年度に市町村などが受けた相談や通報、対応を集計した。



県内半数が認知症

二年度の百五十五件から倍増。被験者は認知症の人が多い約80%を占めた。内容（複数回答）は身体的虐待が最も多の63・8%で、暴言や無視などの心理的虐待（43・1%）、貯金使い込みなど

された高齢者虐待は、介護施設職員からが二件二人、家族や親族からは百十九件百二十人で、虐待された人のほぼ半数が認知症だった。県は、高齢者虐待が潜在化しているケースもあるとみて、認知症の理解促進や事前相談の重要性を指摘している。

県長寿福祉課によると、職員から虐待を受けた一人はともに認知症だった。七十代女性はベッドに拘束された身体的虐待。七十年代男性は、キヤツシユカードで現金を取りられ、経済的虐待と判断された。家族や親族による虐待では、五十七人が認知症と診断

されていて。虐待の種類では、身体的虐待が約四割を占めて最も多く、次いで心理的虐待、経済的虐待、介護等放棄の順だった。虐待をしたのは息子が四割でトップ。夫、娘、息子の配偶者などと続いた。

同課の担当者は、「虐待は潜在化している可能性がある。おかしいと思ったら市町に通報するほか、介護疲れのある人は事前に相談してほしい」と話している。

県内で二三年度に把握された高齢者虐待は、職員からが三件三人、家族や親族からが百十九件百二十三人と、一四年度とほぼ同数だった。

（山本洋児）

潜在化の可能性も

経済的虐待（16・9%）、介護放棄（8・5%）、性的虐待（2・6%）が続いた。

虐待をした職員は三十歳未満が最多の22・0%で、若い世代ほど割合が高かった。原因（複数回答）は、職員の性格や資質の問題

（16・9%）、「職員の教育・知識・介護技術の問題」が62・6%と圧倒的に多く、「職員のストレスや感情コントロールの問題」（20・4%）、「職族による虐待は一万五千七百三十九件で、一三年度からほぼ同数だった。